

株式会社トモク

2023年3月期 決算説明資料

2023年5月



東証プライム

3946

1. 2023年3月期決算
2. 2024年3月期決算見通し
3. 成長戦略と第2次中期経営計画の進捗状況について
(ご参考資料) ESGの取り組みなど



「包む」をイノベーションする。

2023年3月期決算



TOMOKU

売上高2,128億円（前期比+3.3%）
 営業利益74.5億円（同△10.6%）、経常利益79.8億円（同△11.1%）

ROE6.7%（前期8.2%）
住宅事業のセグメント利益が、全体の27.3%と寄与度が増加（前期は22.3%）

段ボール

売上高（前期比+9.9%）、セグメント利益（同△16.4%）
 行動制限の緩和により、食料品や通販分野で堅調に推移するも、
 原燃料コスト等が増加し、収益性は低下

住宅

売上高（同△7.1%）、セグメント利益（同+9.5%）
 仕入価格高騰に加え住宅買い控え等の影響による販売棟数減少も、
 販売価格改定や玉善買収時の会計上の影響※が解消し利益は増加

運輸倉庫

売上高（同+4.3%）、セグメント利益（同△5.4%）
 行動制限の緩和により、個人消費が持ち直し飲料関係の取扱数量
 増加も、燃料費高騰等により収益性は低下

※(株)玉善の買収時の棚卸資産に含まれる時価評価差額が売上原価に与える影響

売上高は直近計画未達だが、2,100億円を突破
営業利益7,452百万円、経常利益7,983百万円は直近計画を上回る

(百万円)

	2022年3月期	構成比 (%)	2023年3月期	構成比 (%)	前期比 (%)	期初計画 2022/5/9 公表	直近計画 2023/1/31 公表
売上高	206,007	100.0	212,817	100.0	+3.3	230,000	218,000
売上原価	172,115	83.5	179,233	84.2	+4.1	-	-
売上総利益	33,891	16.5	33,583	15.8	△0.9	-	-
販売費及び 一般管理費	25,559	12.4	26,131	12.3	+2.2	-	-
営業利益	8,331	4.0	7,452	3.5	△10.6	10,000	6,500
経常利益	8,978	4.4	7,983	3.8	△11.1	10,500	6,800
親会社株主 帰属純利益	5,980	2.9	5,251	2.5	△12.2	6,500	4,100

2023年3月期決算概要（上期・下期）



上期は前年同期比で増収増益を確保するも、

下期からの更なるコストアップにより下期は前年同期比で減収減益

(百万円)

	2022年3月期				2023年3月期			
	上期	構成比 (%)	下期	構成比 (%)	上期	構成比 (%)	下期	構成比 (%)
売上高	98,382	100.0	107,625	100.0	105,553	100.0	107,264	100.0
売上原価	83,197	84.6	88,918	82.6	89,469	84.8	89,764	83.7
売上総利益	15,184	15.4	18,707	17.4	16,083	15.2	17,500	16.3
販売費及び一般管理費	12,543	12.7	13,016	12.1	13,241	12.5	12,890	12.0
営業利益	2,641	2.7	5,690	5.3	2,842	2.7	4,610	4.3
経常利益	2,767	2.8	6,211	5.8	3,644	3.5	4,339	4.0
親会社株主帰属純利益	1,704	1.7	4,276	4.0	2,369	2.2	2,882	2.7

段ボール・運輸倉庫事業：増収も原燃料コスト増加により減益

住宅事業：減収も、販売価格改定や玉善買収時の会計上の影響※が解消し増益 セグメント利益+9.5%

※（株）玉善の買収時の棚卸資産に含まれる時価評価差額が売上原価に与える影響（百万円）

		2022年3月期	2023年3月期	前期比
段ボール	売上高	100,015	109,939	+9.9%
	セグメント利益 (利益率)	5,914 (5.9%)	4,944 (4.5%)	△16.4%
住宅	売上高	67,410	62,637	△7.1%
	セグメント利益 (利益率)	1,861 (2.8%)	2,037 (3.3%)	+9.5%
運輸倉庫	売上高	38,580	40,240	+4.3%
	セグメント利益 (利益率)	1,407 (3.6%)	1,332 (3.3%)	△5.4%
合計	売上高	206,007	212,817	+3.3%

*セグメント利益は、調整前

2023年3月期セグメント別・前年同期比較（下期）



原燃料コスト増加等の影響や住宅事業の落ち込みにより、全セグメントで前年同期比減益

(百万円)

		2022年3月期				2023年3月期		
		1・2Q	構成比 (%)	3・4Q	構成比 (%)	3・4Q	構成比 (%)	前年同期比
段ボール	売上高	49,692	50.5	50,323	46.8	54,276	50.6	+7.9%
	セグメント利益 (利益率)	3,059 (6.2%)	-	2,855 (5.7%)	-	2,270 (4.2%)	-	△20.5%
住宅	売上高	28,399	28.9	39,011	36.2	34,606	32.3	△11.3%
	セグメント利益 (利益率)	△1,203 (-)	-	3,064 (7.9%)	-	2,600 (7.5%)	-	△15.1%
運輸倉庫	売上高	20,290	20.6	18,290	17.0	18,382	17.1	+0.5%
	セグメント利益 (利益率)	1,107 (5.5%)	-	300 (1.6%)	-	246 (1.3%)	-	△18.0%
合計	売上高	98,382	100.0	107,625	100.0	107,264	100.0	△0.3%

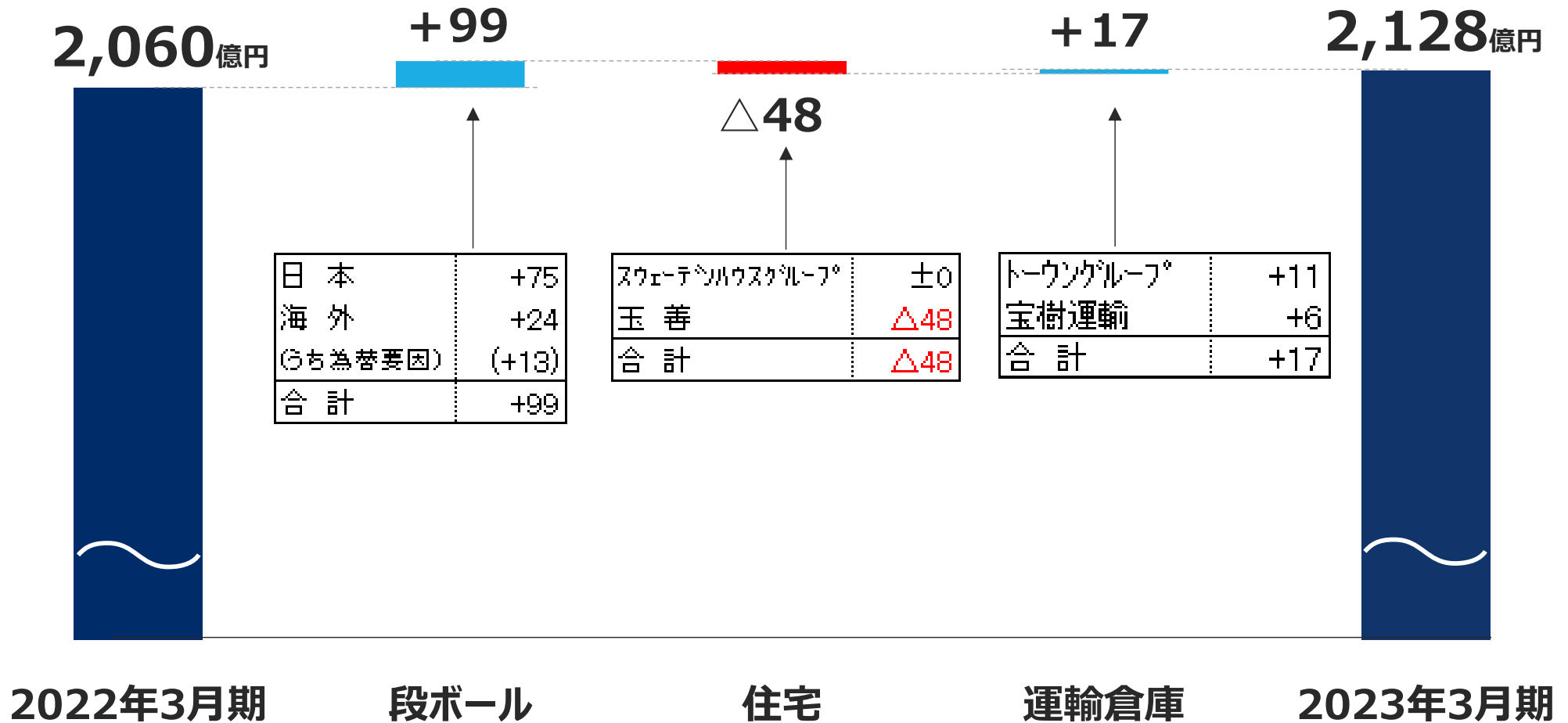
売上高増減要因分析（前期比）

段ボール事業の売上が+99億円の増加（+9.9%）

運輸倉庫事業：個人消費の持ち直しにより飲料関係の取扱数量増加

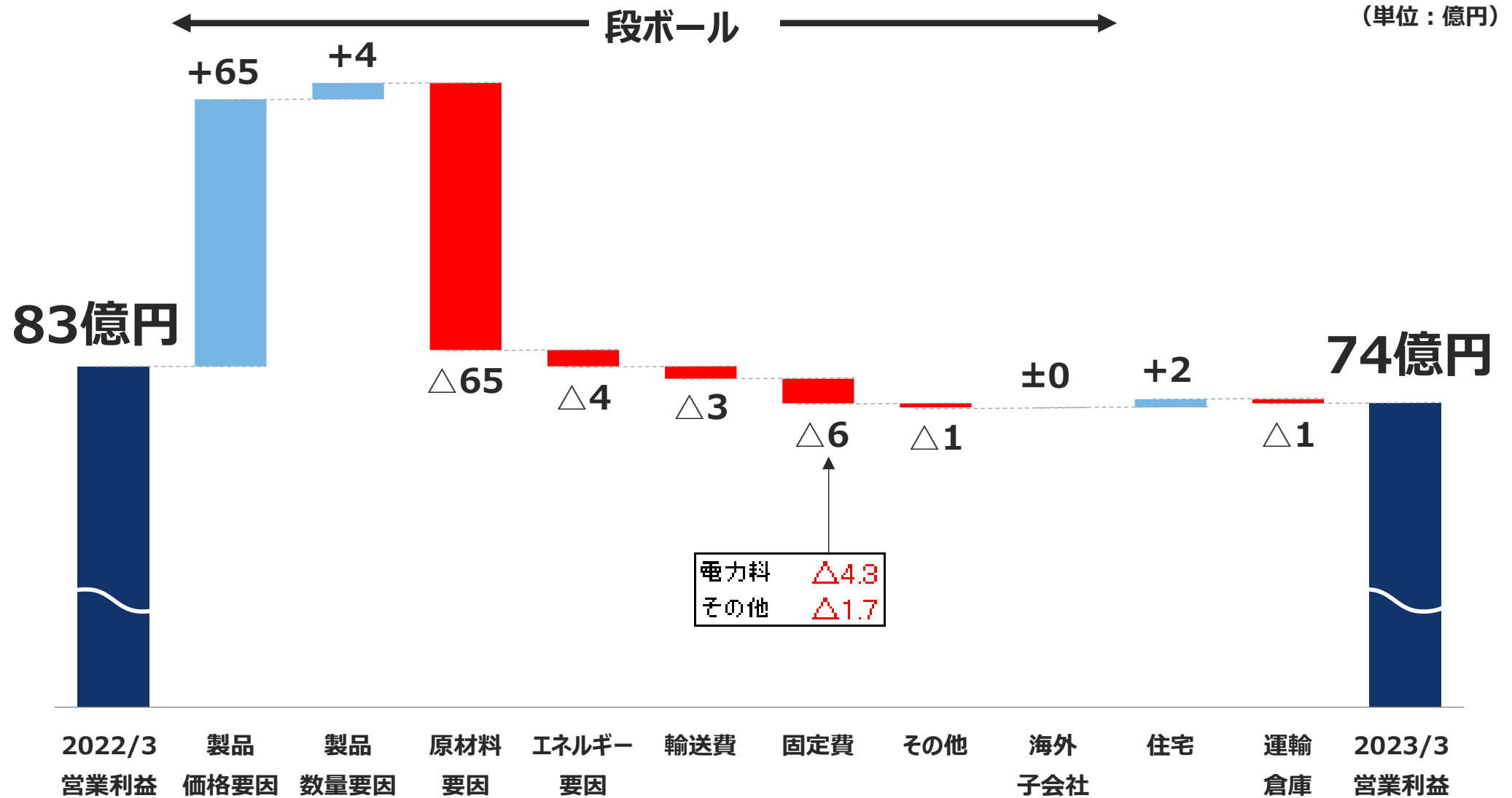
環境に配慮したハイブリッド・EVトラック導入やフォークリフトのバッテリー化を積極的に推進

（単位：億円）



営業利益増減要因分析（前期比）

段ボール事業の製品値上げが増益に寄与するも、原燃料コスト上昇で相殺
一部決定時期ずれ込み分の効果は、次年度になる見込み



バランス・シートの状況

価格改定により、売上債権が増加。

段ボール工場用地取得は、長期借入金で対応。

(百万円)

資産の部	2023年3月期末	前期増減
流動資産	83,628	+2,415
現預金	15,015	△1,686
売上債権	37,522	+2,909
棚卸資産	24,126	△468
固定資産	111,750	+2,946
有形固定資産	94,597	+3,681
投資その他の資産	15,718	△445
資産合計	195,378	+5,360

負債の部	2023年3月期末	前期増減
流動負債	67,641	+18,215
支払手形・買掛金	22,793	+160
短期借入金	8,480	△653
一年以内の長期借入金	23,839	+19,968
固定負債	47,029	△17,436
長期借入金	37,276	△16,888
純資産	80,707	+4,581
(内自己株式)	△4,199	(+14)
負債・純資産合計	195,378	+5,360

段ボール事業の製品価格改定による売上債権増加や、住宅事業の販売在庫減少額が縮小したことにより、営業活動CFは前期対比減少。積極的な投資活動（段ボール工場用地取得・生産設備増強）には、借入金を活用。
(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	備考
現金・同等物 期初残高	13,813	16,568	
営業活動CF	16,701	7,013	売上債権の増加額△2,716（前期は△1,507） 棚卸資産の減少額 +527（前期は+1,939）
投資活動CF	△18,216	△9,389	有形固定資産取得△9,433
フリーCF	△1,515	△2,376	
財務活動CF	4,117	535	長期借入れによる収入+8,998 長期借入金返済支出△6,467
現金・同等物 期末残高	16,568	14,882	



「包む」をイノベーションする。

2024年3月期決算見通し



TOMOKU

各事業ともに、売上は安定成長を見込むが、
 原材料・木材のコスト上昇や燃料高による収益への影響が懸念材料

	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (見通し)
段ボール	(国内) 原材料価格高騰による価格転嫁のタイムラグ (海外) 米国、ベトナム新設備の本格稼働	(国内) 価格転嫁効果 コロナ規制緩和による需要増 (海外) 米国はコロナ明け後順調に推移 ベトナムは上期若干低迷するが、下期以降回復を見込む
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・土地や木材価格の高騰、半導体不足の影響 ・住宅買い控えの影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・規格商品のプラン数増による提案力強化 ・スウェーデンハウス「オリコン顧客満足度調査ハウスメーカー注文住宅」9年連続総合1位の訴求 ・玉善「オリコン顧客満足度調査建売住宅ビルダー東海デザイン」3年連続1位の訴求
運輸倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・6月からの猛暑による飲料取扱数量の増加 ・TLP札幌の本格稼働 ・燃料価格等エネルギーコストの高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・価格転嫁効果 ・コロナ規制緩和による需要増 ・関西圏での宝樹運輸とのシナジー効果追求

売上高2,350億円（+10.4%）営業利益115億円（+54.3%）

価格転嫁が浸透し過去最高を更新へ

	2023年3月期 (実績)	構成比 (%)	2024年3月期 (計画)	構成比 (%)	前期比 (%)
					(百万円)
売上高	212,817	100.0	235,000	100.0	+10.4%
営業利益	7,452	3.5%	11,500	4.9%	+54.3%
経常利益	7,983	3.8%	11,600	4.9%	+45.3%
親会社株主帰属 純利益	5,251	2.5%	7,700	3.3%	+46.6%

2024年3月期決算見通し（上期・下期）

前期より、価格転嫁効果及びコロナ規制緩和による需要増を見込み、増収増益を見込む

上期・下期のバランスは、売上高で47.2%：52.8%、営業利益で33.0%：67.0%を想定
 （前期実績：売上高で49.6%：50.4%、営業利益で38.1%：61.9%）

（百万円）

	2023年3月期（実績）				2024年3月期（計画）			
	1Q・2Q	構成比 （%）	3Q・4Q	構成比 （%）	1Q・2Q	構成比 （%）	3Q・4Q	構成比 （%）
売上高	105,553	100.0	107,264	100.0	111,000 (+5.2%)	100.0	124,000 (+15.6%)	100.0
営業利益	2,842	2.7	4,610	4.3	3,800 (+33.7%)	3.4	7,700 (+67.0%)	6.2
経常利益	3,644	3.5	4,339	4.0	3,800 (+4.3%)	3.4	7,800 (+79.8%)	6.3
親会社株主 帰属純利益	2,369	2.2	2,882	2.7	2,400 (+1.3%)	2.2	5,300 (+83.9%)	4.3

段ボール事業 : 原材料価格高騰は内部改善と取引条件の改善で対応
 住宅事業 : ブランド力の深化と新商品で若い世代、子育て世代への販売活動強化
 運輸倉庫事業 : 燃料高騰は輸送費値上げにより吸収

(百万円)

		2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (計画)	前期比
段ボール	売上高	109,939	125,000	+13.7%
	セグメント利益 (利益率)	4,944 (4.5%)	7,900 (6.3%)	+59.8%
住宅	売上高	62,637	66,000	+5.4%
	セグメント利益 (利益率)	2,037 (3.3%)	2,600 (3.9%)	+27.6%
運輸倉庫	売上高	40,240	44,000	+9.3%
	セグメント利益 (利益率)	1,332 (3.3%)	1,900 (4.3%)	+42.6%
合計	売上高	212,817	235,000	+10.4%

セグメント別事業予想（上期・下期）

段ボール事業：上下期均等な事業成長を見込む。年間を通して価格転嫁効果が出る予定

住宅事業：堅調な販売を想定。下期に売上が傾斜する見込み

運輸倉庫事業：繁忙期の夏の飲料輸送はもちろん、下期はコロナ規制緩和による需要増を想定

(百万円)

		2023年3月期 1Q・2Q (実績)	2023年3月期 3Q・4Q (実績)	2024年3月期 1Q・2Q (計画)	前年 同期比	2024年3月期 3Q・4Q (計画)	前年 同期比
段ボール	売上高	55,663	54,276	62,000	+11.4%	63,000	+16.1%
	セグメント利益 (利益率)	2,674 (4.8%)	2,270 (4.2%)	3,770 (6.1%)	+41.0%	4,130 (6.6%)	+81.9%
住宅	売上高	28,031	34,606	26,000	△7.2%	40,000	+15.6%
	セグメント利益 (利益率)	△563 (-)	2,600 (7.5%)	△760 (-)	-	3,360 (8.4%)	+29.2%
運輸倉庫	売上高	21,858	18,382	23,000	+5.2%	21,000	+14.2%
	セグメント利益 (利益率)	1,086 (5.0%)	246 (1.3%)	1,240 (5.4%)	+14.2%	660 (3.1%)	+168.3%
合計	売上高	105,553	107,264	111,000	+5.2%	124,000	+15.6%

配当： 2024年3月期年70円配当へ（前期比+10円配）

- 【方針】**
- ・中長期成長のためのM&Aや設備投資を優先し、収益に応じ配当額引上げ
 - ・安定的に100億円以上の営業利益を見込める企業体質に出来た時点で、配当性向の基準を設定し、株主還元を高めていく

*** 2023年3月期** : 配当性向18.8% 年60円（中間28円+期末32円）

*** 2024年3月期（予想）** : 配当性向14.9% 年70円（中間35円+期末35円）

	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	変化	2024/3 (予想)	変化
中間	20	20	25	28	+3	35	+7
期末	25	25	27	32	+5	35	+3
合計 (円)	45	45	52	60		70	
配当性向 (%)	16.1	15.0	14.3	18.8		14.9	



「包む」をイノベーションする。

成長戦略と第2次中期経営計画の進捗状況について



TOMOKU

各分野で同業他社との差別化、独自の視点・展開で成長を追求

段ボール

「段ボール加工専門メーカー」として、「加工力」と「供給力」を強化し、差別化
物搬に不可欠な代替の利かない今後も有望な素材
高品質・高生産性を武器に需要増を確実にカバー
新パッケージ考案による新しい分野への参入

住宅

高品質な環境共生・省エネ住宅「スウェーデンハウス」ブランドの深化で
付加価値の高い住宅の提供
各世代に併せた商品プランの多様化と高級志向者向けの外構デザイン・
インテリアを含めた提案力の強化

運輸倉庫

「段ボール」供給とセットで、飲料など消費財中心に運搬業務の受託拡大
川上～川下まで一貫した物流を受託
2024年問題への対応

「段ボール加工専門メーカーNo.1」として、長期的需要を見据えて生産能力を拡大。
付加価値の高い最新鋭機械の投入とM&Aにより、量的拡大を狙う。

直近のプロジェクト（3件）



<p>新青森工場（移転） 青森県青森市 (2024年1月完成予定) 投資額64億円（予定） 敷地面積33,000㎡（約10,100坪） 建物面積16,700㎡（約 5,050坪）</p>
<p>(株)コスモス工業 子会社化 長野県茅野市 (2023年4月株式取得) 敷地面積9,470㎡（約2,870坪）</p>
<p>子会社タイヨー(株) 工場用地取得 神奈川県伊勢原市 (2022年12月取得) 投資額43億円 敷地面積20,000㎡（約6,200坪）</p>

米国は魅力的な世界第2位市場

米国・カルフォルニア

新規設備を活かした深耕営業による大幅拡販

SOUTHLAND BOX COMPANY
2021年12月落成 生産能力 2.0倍に

販売量 : +14.6% (前期比)
売上高 : +30.3% (同上)



米国仕様の 最新鋭機械 (TM450)



海外段ボール事業 (2023年3月期)
世界経済低迷の影響などを受け減収減益
となったベトナムを米国がカバー。
海外段ボール事業は増収増益

売上高 : +17.6% (前期比)
段ボール事業売上構成比 14.6%
営業利益 : +5.7% (同上)
段ボール事業営業利益構成比 22.5%

経済成長著しいASEANエリアでの需要回復・更なる成長へ

ベトナム・ビンズン省

現地工場：2014年10月落成

米国・欧州・中国を中心とした世界経済低迷の影響など受けるも、今期下期からは回復へ。

販売量：△17.3%（前期比）

売上高：△8.3%（同上）



スウェーデンハウス×リゾート企業とのコラボ
「長井海の手公園 ソレイユの丘」
(神奈川県横須賀市)

グランピング用宿泊施設5棟の 設計・施工
⇒ 全国各地のグランピング用宿泊施設へ
売り込み強化

商品プランの多様化
コストメリットが高く

ライフスタイルや生活習慣の変化にも
対応できる新商品

⇒ スペース効率化・世代を超えた
住宅の可能性で高品質ロングライフ住宅で差別化



グランピングコテージGC1 (1号棟)



グランピングコテージGC2 (2号棟)



グランピングコテージGC4 (4号棟)
外観



グランピングコテージGC4 (4号棟)
内観



建売住宅のデザインのラインアップを強化、東海地区で、デザイン顧客満足度NO1



株式会社 玉善

「オリコン顧客満足度調査建売住宅ビルダー東海デザイン」3年連続1位

TAMAZEN QUALITY



大府市 共西町 12-3-4 南西側



南区 菊住 11-2-3 南側



西区 稲生町V T1-2-3-4 南側

当社ならではの段ボール提供と一体化した運搬の利便性をアピール、顧客獲得・シェア向上へ

2023年のライブ・エンタテインメント市場規模はコロナ禍前水準を回復、2025年までの3カ年の年成長率は2.4%を見込む。飲料需要増加に伴い、運輸倉庫事業の業績回復、更なる成長を見込む



2024年3月期見通しを踏まえると、第2次中期経営計画目標は射程圏内に

第2次中期経営計画の基本方針：サステナブル成長へ事業領域を拡大

「段ボール」「住宅」「運輸倉庫」3部門間の事業サイクルにより、
「効果的な」企業価値向上を実現へ

	2023年3月期 実績		2024年3月期 予想		第2次中期経営計画最終年度目標 (2025年3月期)				差異
					2022年5月計画値		2023年5月修正値		
売上高	2,128億円	100%	2,350億円	100%	2,500億円	100%	2,500億円	100%	+372億円
段ボール	1,099億円	51.7%	1,250億円	53.2%	1,250億円	50.0%	1,320億円	52.8%	+221億円
住宅	626億円	29.4%	660億円	28.1%	800億円	32.0%	730億円	29.2%	+104億円
運輸倉庫	402億円	18.9%	440億円	18.7%	450億円	18.0%	450億円	18.0%	+48億円
営業利益率	3.5%		4.9%		5.8%		5.8%		+2.3pp
段ボール	4.5%		6.3%		7.0%		6.8%		+2.3pp
住宅	3.3%		3.9%		4.0%		4.5%		+1.2pp
運輸倉庫	3.3%		4.3%		5.0%		5.0%		+1.7pp
ROE	6.7%		8.9%		10.0%		10.0%		+3.3pp

総額101億円を投資。段ボール事業中心に生産能力強化し業容拡大へ

	段ボール	住宅	運輸倉庫
投資枠	400億円 (海外工場含む)	50億円	50億円
内容			
初年度投資状況 (2023年3月期)	<p>累計：89億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産能力強化 工場用地取得 工場建物新設 最新鋭設備導入 ・環境対応 ボイラー燃料を重油からガスへ LED、バッテリーリフト 	<p>累計：7億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルハウス建築 	<p>累計：5億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両増車、入替

※M&A枠：200億円

「包む」をイノベーションする。

ご参考資料① ESGへの取り組み



TOMOKU

グループ経営理念・方針体系

品質・価値・暮らしを「包む」

High Moral
High Quality
High Return

CSR方針

環境方針

人権方針

コーポレートガバナンスガイドライン

安全衛生方針

調達方針

品質方針

{ 持続可能な調達ガイドライン
持続可能な木材・紙調達ガイドライン

グループ行動基準

サステナビリティ推進体制

代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置
サステナビリティの課題を定期的に審議し取締役会に報告

取締役会

サステナビリティ委員会

サステナビリティ検討プロジェクトチーム

TCFD開示プロジェクトチーム他

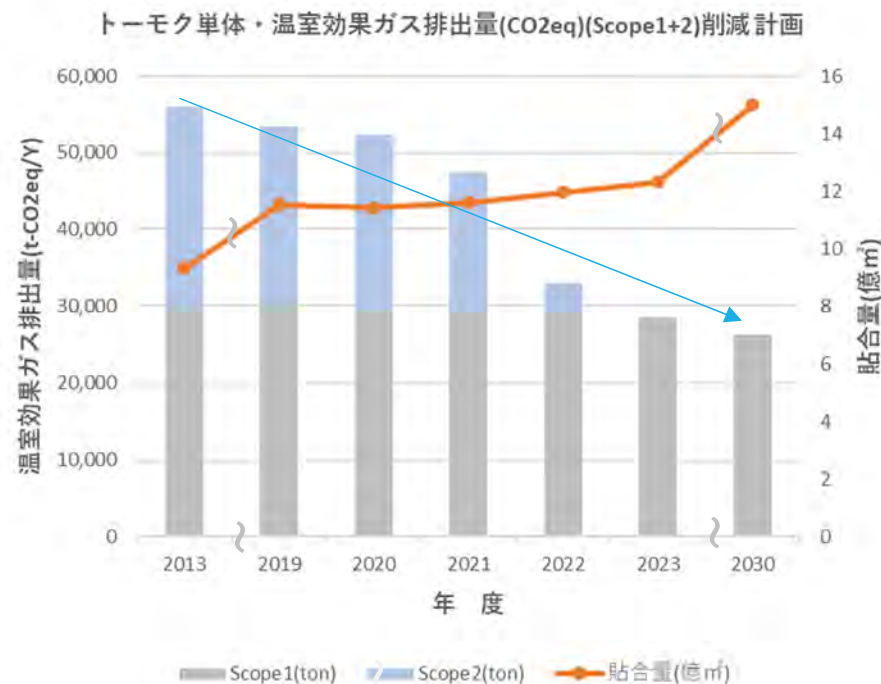
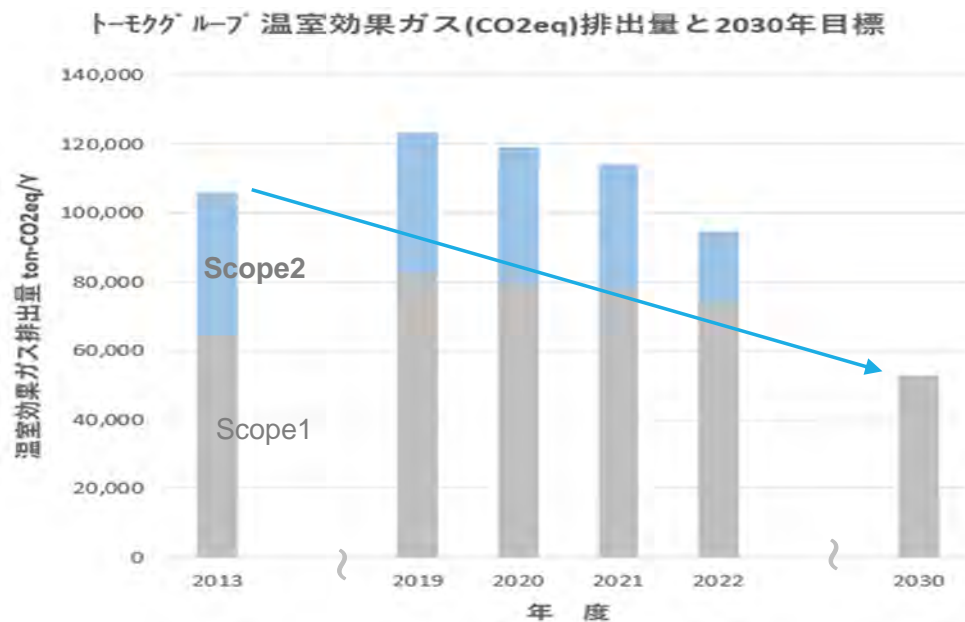
マテリアリティ

地球環境保全 多様な人材の活躍と人権尊重 ガバナンス強化
地域コミュニティの発展 製品やサービスの安全・安心

GHG 2030年までに2013年比で50%削減（Scope1+2）：再生可能エネルギー導入や効率化・プロセス改善

段ボール	対象：生産設備中心 再生可能エネルギー由来電力の導入、燃料の重油から天然ガスへの切り替え LED照明への切り替え、バッテリー式フォークリフトの導入
住宅	対象：スウェーデンハウス（注文住宅）、玉善（建売住宅） 居住時のエネルギー消費量を2016年省エネ基準比 CO2・50%削減 （中長期）教育・医療・福祉を充実させたい人と環境にやさしい街づくりに貢献 スウェーデンヒルズ（札幌市郊外のスウェーデンハウスの街）の横展開 森林保全・植林によりエリア内のCO2発生量を吸収 今後、他の分譲エリアのCO2吸収・削減活動のお手本に
運輸倉庫	対象：倉庫設備と輸送体制の省エネルギー化 EV・ハイブリッド車の導入、効率的な配車計画、実車率の向上 グリーンプロジェクト活動（省エネ運転・アイドリングストップ等による燃費向上など）、 バッテリー式フォークリフトの導入

温室効果ガス（GHG）▲50%目標に向けた取組み状況及び計画



温室効果ガス（GHG）削減 取組状況

- 再生可能電力の導入 2022年3月期：トモク5工場、トウタウンTLP群馬、TLP札幌で導入済
2023年3月期：トモク7工場、トウタウン3倉庫で導入済
2024年3月期：トモク全17工場導入完了（2023年4月より実施済）
 - ボイラー燃料の重油 ⇒ ガス化 13工場ガス化済
 - LED・バッテリーリフト・無人リフト 2021年4月以降 順次更新
-
- スウェーデンハウス 2021年3月期△37% ⇒ 2022年3月期△38% ⇒ 2023年3月期△39% ※1
居住時のエネルギー消費量 (全着工物件の平均)
 - HUS ECO ZERO×ずっともリナー 2020年9月8日より提供開始

※1:(削減率)BEI=設計一次エネルギー消費量/基準一次エネルギー消費量

持続可能な原材料100%に向けた取組み

・FSC認証原紙の購入

取引先へのSAQ(Self-Assessment Questionnaire)の実施
段ボール原紙は、原則、FSC認証*された原紙を購入

*FSC(森林管理協議会)認証:合法性、労働者・先住民の権利、地域社会との関係など
広範な視点から森林管理を認証する制度

・森林資源の保全に配慮した住宅材購入

住宅事業(スウェーデンハウス)では、森林資源の保全に配慮した事業を展開

- ・森林資源が厳しく管理されている北欧材を使用したパネル製造・組み立て
⇒ 森林資源・生態系保全、地球温暖化防止に貢献する住宅
- ・「木材調達方針」で持続可能な森林経営を支援
- ・木材産地や樹種等に基づく木材評価体系を作成、森林保全に配慮した購入

リサイクル(段ボールのリサイクル、住宅建築現場での廃棄物処理など)

サーキュラーエコノミーの潮流を認識、廃棄物削減、リサイクル化を率先して推進

・段ボール事業

段ボール端材は段ボール原紙に100%再利用、リサイクルマーク表示率約98%

・住宅事業

住宅建築現場での廃棄物発生を削減するため、使用パネルの改良にも工夫

地球温暖化防止

温室効果ガス削減 50% (2030年)

生物多様性保全

持続可能な原材料 100% (2030年)

人権の尊重

人権研修の実施 グループ従業員100%
人権DDの実施 グループ会社100%

サプライチェーン※

サプライチェーンSAQの実施

労働安全衛生

災害ゼロに向けた職場環境整備 労働災害 0件

ダイバーシティ&インクルージョン※

女性従業員比率 20% (2030年)

有給休暇取得率 70%

女性管理職比率 10% (2030年)

障がい者雇用率 3.0%

男性育児休暇取得率 100%

地域コミュニティの発展※

全工場で地域住民との交流、小中学生を対象とした社会環境教育のための工場見学会実施

※トーモク単体

【対象事業とシナリオ】

昨年は、当社グループにおいて売上・営業利益の大きい段ボール・セグメントのトモク単体のみを対象としましたが、本年は、質と量の拡充をはかる観点から、トモク単体に、国内段ボール・紙器関連グループ会社を追加し、2つの将来シナリオ（4℃シナリオ及び1.5℃シナリオ）を用い、2021年度実績を基準に2030年時点での影響を考察しています。今後、運輸倉庫セグメント、住宅セグメントにも分析を広げ、継続してシナリオ分析を実施することで、その精度を高めていく予定です。

【事業インパクトのシナリオ毎分析】

2030年想定を2021年度実績に当てはめると、1.5℃シナリオでは、政府による炭素税等の規制強化や、再エネ電力価格上昇によるリスクが大きい結果となりました（営業利益で約-19%）。ボイラー等に使用する化石燃料の削減が一層重要になります。

一方、4℃シナリオでは、洪水被害によるリスクが大きい結果となりました（営業利益で約-15%）。BCP対応の強化が必須となります。

【機会を捉えた取組み】

プラスチック規制は、代替材としての段ボール・紙器用途を広げる可能性があります。また、循環型社会への移行は、段ボール素材の優れた環境性能への関心を高め、新たな需要が創出される可能性があります。トモクグループは技術・デザイン開発に注力することで事業機会を捉え、企業価値の向上に努めて参ります。



ご参考資料② 会社概要など



TOMOKU

パーパス（存在意義）

「包む」を通じて、
「包む」をイノベーションして
社会のサステナブルな成長に貢献する。

省エネを追求する段ボール・住宅（スウェーデンハウス）
を中心に、環境を改善しながら企業価値を高めていく。

ミッション（使命）

お客様の大切な商品を包み、消費者の皆様にとっての価値を包み、
人々の豊かな暮らしを包み、大切なものを包んで届ける。

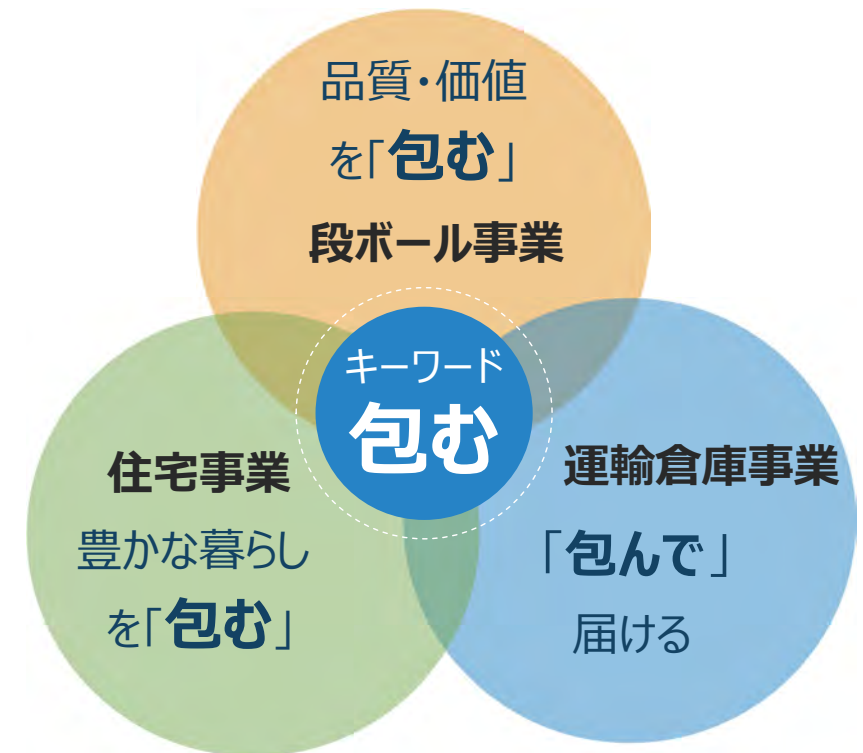
ビジョン（あるべき姿）

- 「段ボール」「住宅」「運輸倉庫」の3事業で「包む」をコンセプトに
経営資源を最適に配分、付加価値を高めて
「環境に優しい」高品質経営を展開する。
- 高い倫理観と強い責任感を持って「環境に配慮した」事業活動を通
じて、社会の持続的発展に貢献する。
- 新たな事業の構築に取り組み企業価値の更なる向上を図る。

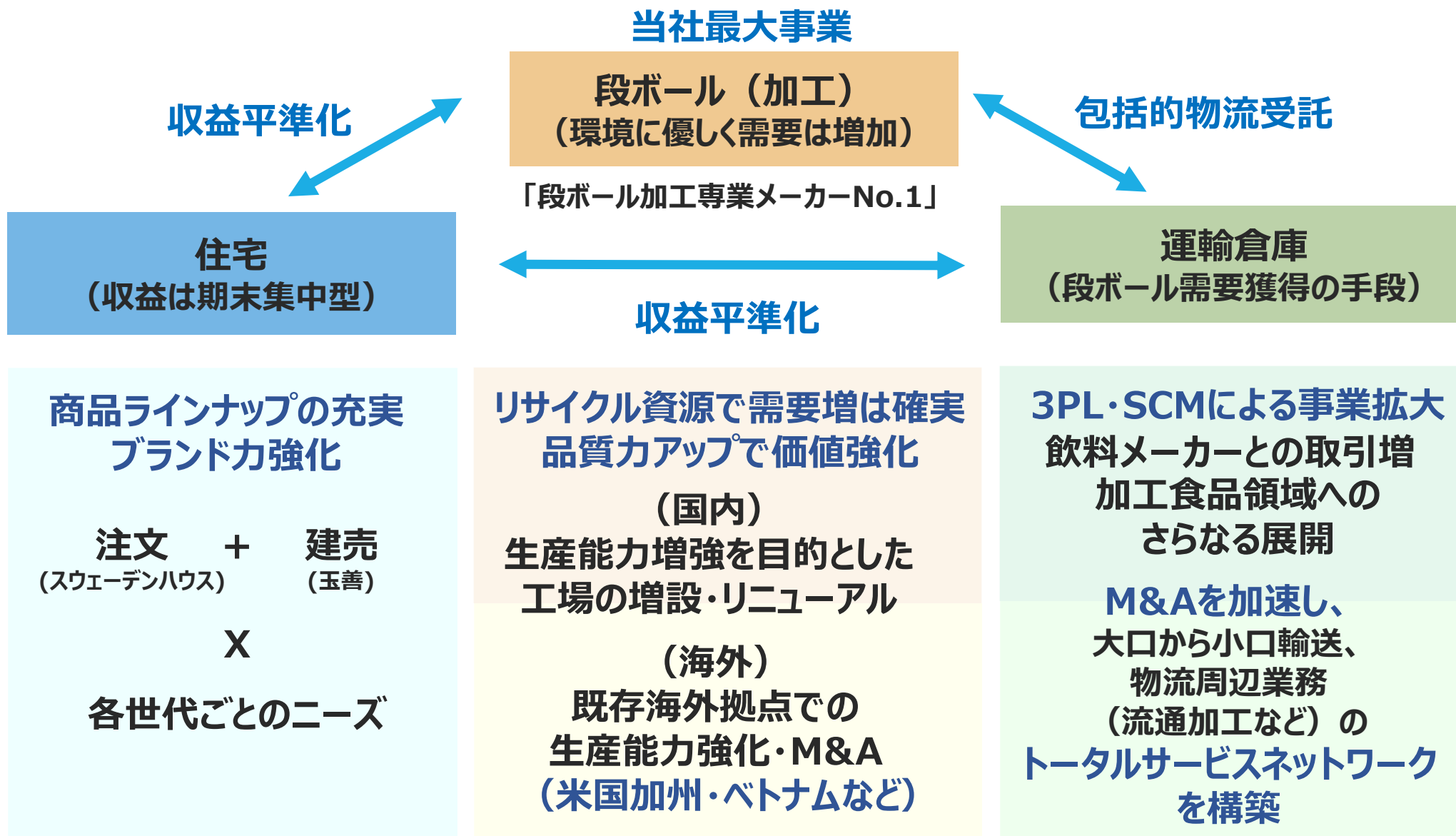
長期経営目標（2029年3月期）

売上高 3,000億円以上
ROE 12%以上

日常を包む⇒社会のサステナブルな成長



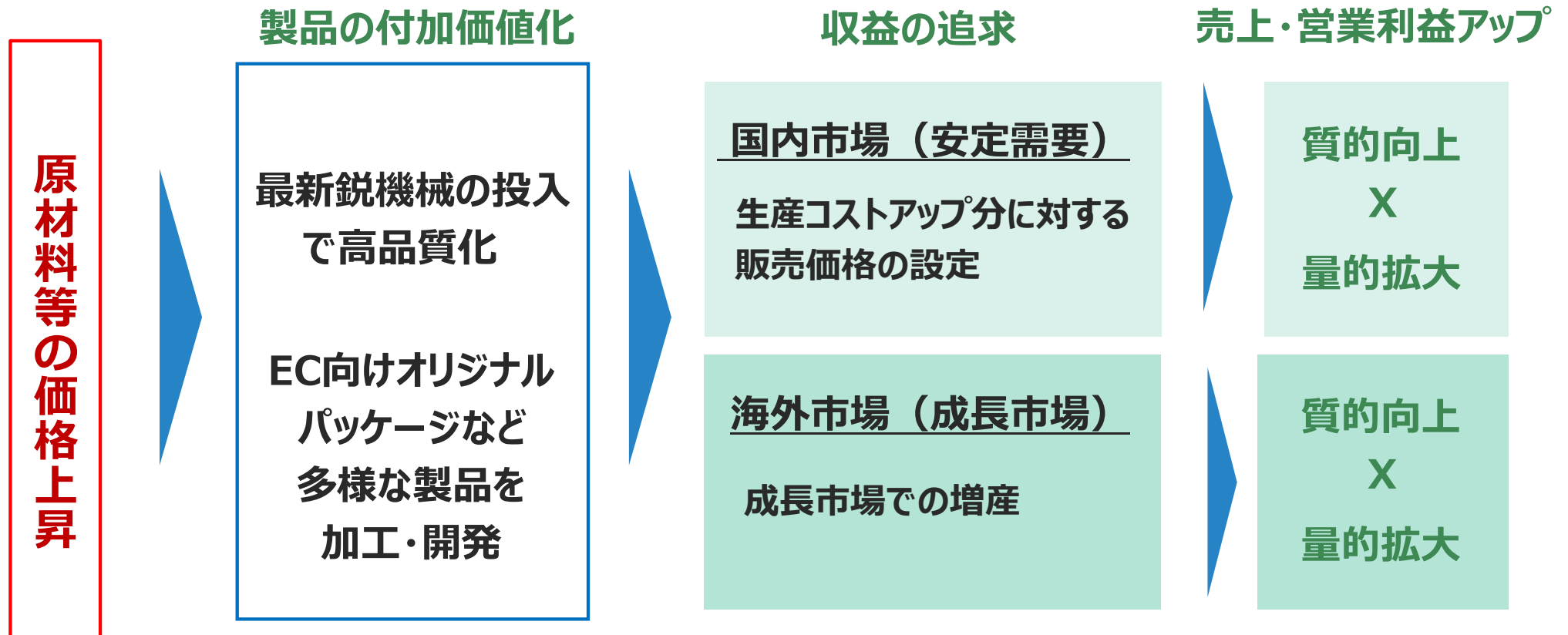
「3部門間の事業と財務連携効果」により、堅実・安定的な企業価値向上の実現へ



段ボール事業：「加工力」「供給力」を強化して収益力を強化

当社ポジショニング：「段ボール加工専門メーカーNo.1」 = 段ボール「加工力」No1

リサイクル可能な運搬素材として、段ボール需要の確実な増加を想定。
 原材料・エネルギーコスト上昇は、価格転嫁で対応。



顧客満足度と生産性向上へ集中投資
 消費者に近接した場所へ工場を配置。顧客へ機動的なサービスを提供



高い顧客満足度と採算性を両立

効率的な生産・物流

- ・業界最速スピードの最新鋭の高速貼合機（大手機械メーカーと共同開発）
- ・迅速かつ正確なデリバリーを支える物流システム（運輸倉庫事業会社を活用）

工場は、
 最大消費地の
 関東中心に立地
 （段ボールは納期厳守）



工場と営業部門が一体化

- ・工場が生産状況やコストを考慮し受注判断
- ・採算性と効率性を追求した受注と生産体制

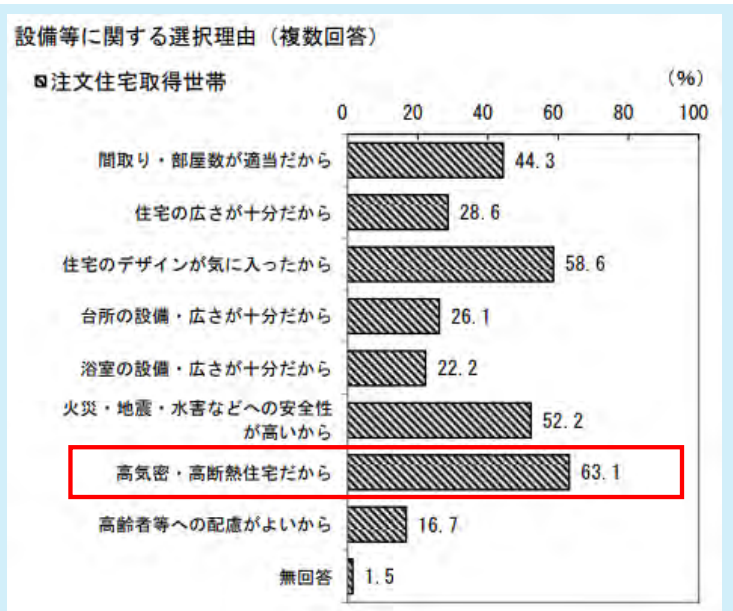


40年間選ばれてきたスウェーデンハウスの特徴：「高気密・高断熱の省エネ住宅」

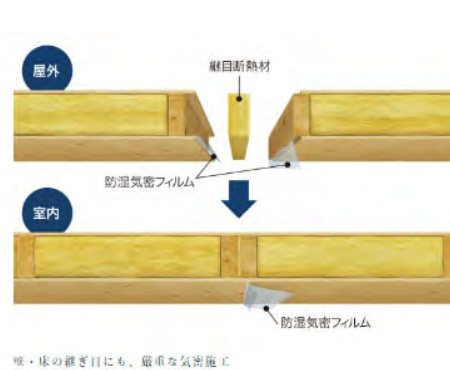
- ガラス・枠でダブルの高い断熱性を実現する**木製サッシ3層ガラス窓**
- 「国が定める省エネ住宅（2016）」と比べ、**消費電力28%減を誇る省エネ効果**
※オール電化、延床面積120㎡（6地域）の建物で試算
- 住宅全体の空気が2時間に1回入れ替わる**24時間熱交換型換気システム**

■ 最新の省エネルギー基準を大きくクリアする高い断熱効果

- 地震の揺れを「面」で受け止め、分散させることで高強度を実現した**モノボックス®構造**
- 一棟一棟の断熱性能を表す数値を表示する**安心の性能保証**
- **50年間無料定期検診**によるアフターメンテナンスサービス



国土交通省住宅局の調査によると、注文住宅取得世帯では、求める設備、選択理由として「**高気密・高断熱住宅**」が **63.1%**で最も多い



壁・床の継ぎ目にも、徹底的な気密施工



家全体を厚い断熱材でぐるりと包みこむ。夏は風のように高気密な断熱構造



3層ガラス。2枚の枠で、ダブルの断熱効果

出所：国土交通省 住宅局「令和3年度住宅市場動向調査報告書」

オーダーメイド式注文住宅ならではの事業特性を、最大限活かして、WEB完結型営業を推進、高級注文住宅志向の富裕層に対する訴求力を強化

バーチャル展示場見学



オンライン相談会



3Dウォークスルー動画配信



専用アプリの提供



トーンTLP札幌センター（2021年11月オープン・北海道）

顧客（飲料メーカー）と協働で、飲料専門の物流センターを開設。

⇒ 飲料メーカーとの関係強化から運輸倉庫事業の取扱量増加（ビジネス強化）に直結。

2023年3月期決算においては通年化効果



事務所棟は
「スウェーデンハウス」仕様



お客様との関係維持・強化へ
「協働物流センター」の開設
を積極的に提案。

（お客様のメリット）

段ボールと
輸送手段（トラック）を
当社のワンストップサービスで確保

協働物流センターの開設
をご検討のお客様が増加中。
現在：札幌11社、群馬7社

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2023年5月現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2023年5月現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

株式会社トーモク

東証プライム：証券コード 3946

連絡先

mail:3946ir@tomoku.co.jp